五回目を迎えた 日加経済人会議

カナダと日本の経済関係は緊密化の一途をたどっている。貿易額は往復で八十五億ドルを超え(一九八一年)、天然資源の開発を中心に日本の対加投資も増えてきた。こうした経済関係の緊密化に大きな役割を果たしているのが、両国の主な企業家で構成する日加経済人会議である。五月十七日—十九日の三日間、札幌で開催された第五回日加経済人会議を機会に、カルバー同会議カナダ委員会会長、槇田日本委員会会長はじめ、各分野でカナダあるいは日本とかかわりをもつ両国の企業家に、それぞれの体験や日加経済関係に対する期待などについて語ってもらった。

相互理解を求めて

日加経済人会議 日本委員会会長
槇田久生
(日本鋼管会長)

早いもので、日加経済人会議も今年で第五回目を迎えた。

この日加経済人会議は一九七六年に外務省の委嘱により派遣された訪加経済使節団が契機となって発足したものである。

私はその使節団の団長として参加したが、その際の印象を一言で言うと、日本でもカナダでもこれまで長い間親密な付き合いをしてきたにもかかわらず、互いに分かっているようでまだまだ分からない点が数多くあるということであった。

翻ってこれからの日加関係を考えてみると、両国は互いに太平洋をはさんでいわば大変近い隣国の関係にあり、今後ますます協力関係を促進していくことが日加双方にとってはもちろん、世界にとっても、有益であるのは、極めて明らかである。

そのようなわけで、これからも両国が良きパートナーとして発展を続けていくためには、まずお互いが心の底から理解し合うことが大切であり、そのためには日加双方の実業人による長期的かつ継続的な話し合いの場を設けることが是非必要であることが痛感された。

槇田久生氏

この構想は、幸い日加両国経済界の多数の方々のご賛同を得、直ちに両国に経済人会議を開催するための準備委員会が設置された。

その結果、第一回会議が一九七八年東京で開催され、その後第二回をトロントで、第三回は京都、第四回会議は昨年五月バンクーバーと続いて、第五回会議が今度札幌で開催された。このように、これまで双方とも開催場所を変え、両国の歴史、風土等を勉強しながら、実業人の立場でこれからの日本とカナダの経済関係をめぐるいろいろな問題について率直な話合いを続けてきたわけである。

日加経済人会議は、関係各位のご協力とご支援により、回を重ねるごとに参加者数も増え、また内容的にも極めて充実したものに発展してきた。

過去四回の会議を通じ、まだまだ十分とは言えないまでも、日加双方のメンバーが互いに相手方の政治・経済の仕組み、さらには文化や国民性、特に物の考え方といったことについてまでも、いささかなりとも認識を深めることができたのではなかろうか。会議全体の雰囲気をみても、メンバー相互間に個人的な友好関係が発展しつつあることが感じられる。

改めて言うまでもないが、日加経済人会議の基本的目的は、利害を対立させて